

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート>	部門 校内研修 部門	学校名・氏名 千葉県立長生特別支援学校
------------	---------------	------------------------

※事務局記入欄 No. : C - 16	活動名 特別支援学校学校安全研修 多職種校における安全研修の在り方	
-------------------------	---	--

課題の設定 :

学校健康教育の三領域(学校安全、学校保健、学校給食)に特別支援学校では以下の視点が加わる。
 ・学校安全：スクールバスや多岐に渡る自力通学の計画 消防法による防火管理基準が異なる
 ・学校保健：医療的なケアへの対応 災害時における緊急薬の預り
 ・学校給食：再調理の形態が個に応じている 摂食指導（誤嚥の防止）
 また、教諭、事務職員、養護教諭等の教職員の数の多さに加え、看護師、スクールバス運転手、バス介助員、調理員等、職種も多岐に渡る。
 学校安全に係る職員の研修内容を学校安全計画に明記し、学校の全職員に徹底されることを目標にする。

方針・計画 :

教職員の数が多く、また、他職種であり、学校安全に係る内容も多岐に渡る特別支援学校において、安全で安心な学校を作るためには、安全に係る研修内容を学校安全計画に明記し、全職員で研修に取り組む中で、随時見直しや追記をしながら研修内容を共有していくことで、安全に対する意識を醸成、維持し、児童生徒が楽しく学校生活を送れるであろうという仮説を立て取り組んだ。

活動内容 :

- ・学校安全：学校安全計画の確認<資料 2、3> 不審者対応<写真 1> スクールバス内での発作や津波発生時の初期対応<写真 2> 消火訓練 通学路やスクールバス停の安全確認 起震車（保護者、地域向けを含む研修） 学校安全（夏季休業中 他校や他県の防災教育の実践も紹介）
- ・学校保健：心肺蘇生・AED 使用 水泳の授業中等における発作時等の対応 医療的ケアが必要な児童生徒の緊急時対応 嘔吐時の対応や緊急薬の預り等の確認 アレルギー・エピペン使用
- ・学校給食：調理器具の劣化等に関する確認 過去の異物混入死亡事故から学ぶ 再調理 摂食指導

活動の成果 :

夏季休業中の研修アンケート等より（職員）○他県での取り組みを知ることができ見聞が広がった。今後授業でも防災・安全の視点を意識しながら、どの教科等につながっていくのかも考えて授業を構成したい。○いつ起こるのか分からない災害を、いろいろな場面で想定して（校外学習や修学旅行）考えておくことが大切だと思った。避難等について、他の先生方の考え方も伺うことができて勉強になった。○命を預かっていることを一番に考え、臨機応変な対応ができるように常に意識をもっていたいと思った。○「我がこと意識」が高まった。毎日の生活の中から防災や安全に結び付けて指導・実践をしていきたい。

アピールポイント（アイデアや工夫） :

- ・今まで行っていた防災・安全に関する研修を学校安全計画に視覚的に網羅することで、学校安全への理解が深まった。
- ・今までの訓練や研修等について、学校全体の視点でつなぎ、話し合いながら考える研修を夏季休業中に行ったことで、学校安全への意識が高まるとともに、日常生活における安全についても考えるようになった。<資料 1>
- ・管理職（事務長や教頭）や安全に係る分掌チームの連携により、他職種職員も含めて組織的な研修が実施された。

カリキュラムマネジメント演習
 ・同じ学部3名程度でグループを作り1名の児童生徒を対象として 障害特性や地域特性 また将来予想される進路や社会生活から 安全について身につけさせたい資質や能力について考え どの授業でどのようの身につけさせるかを考えてみてください
 ・小中高各1名でグループを作り 先に話し合った児童生徒1名について上記と同様の視点で考えてみてください

ノンテクニカル・スキルトレーニング
 ○あなたは小学部4年普通学級の担任です。クラスでシーサイドオオツカに徒歩で校外学習に来ました。学校に帰る途中、ちやうどまんなかあたりで突然大きな地震があり、その場でうずくまり避難をしました。揺れがおさまると町の防災無線で大津波警報が発令され、10m予想です。あなたは学校に向かいますか シーサイドオオツカにもどりますか ※ホテルシーサイドオオツカ 学校より海に近いが、海抜は学校の倍近くの高さがある

<資料 1> 夏季休業中の研修スライド



<写真 1> 訓練の前に職員の不審者対応研修 <写真 2> 他職種によるスクールバスの緊急時対応研修

平成30年度学校安全計画		11. 1 現在						
項目	月	4	5	6	7・8	9	10	11
月の重点		通学路の安全を確認しよう	運動会を安全に成功させよう	プールでの事故に気を付けよう	夏休みを安全に過ごそう	交通安全について確認しよう	しおかぜ祭を安全に成功させよう	交通安全について確認しよう
安全学習	教科	・体育施設、設備の使用法、性に関する指導から命の大切さや安全な生活につなげる	・運動会練習や準備や片付け、移動時の安全	・プールにおける健康と安全（日常生活の指導における健康チェック等） ・熱中症対策			・しおかぜ祭練習や当日の安全	・駅伝練習や安全
	理科	・実験器具の安全な使い方及び薬品の安全な使い方と点検（実験の際、プリントによって安全指導の徹底を図る）						
	美術	・道具の安全な使い方 ・防災安全に関するポスターや掲示物等の作成						
	職業・家庭	・調理で使用するガスコンロなどの安全な使い方 ・ミキサー、電子レンジ、ホットプレートなどの電気製品の安全な使い方 ・包丁、ピーラー、ミシン、アイロンなどの電気製品の安全な使い方 ・針やはさみなどの道具の安全な使い方						
	作業学習	・中学部（花づくり班・手工芸班） ・高等部（園芸班・焼き物班・レザークラフト班） ・道具・工具の安全な使い方・塗料の使い方と喚起学習する。						
全	道徳	・A主として自分自身に関すること（節度、節制） ・O主として集団や社会との関わりに関すること（規則の尊重） ・D主として生命や自己に関すること						
	自立活動	・健康の保持（アレルギー対応、緊急薬の保管、再調理の道具等の管理面の充実及び、変化への対応力の育成）、心理的な安定（安心グッズの把握、身体の動き（車椅子ごと運べない場合、避難時に抱えられる、おぶられる姿勢や過敏の解消）、コミュニケーション（助けてといえる）						
	生活科・日常生活の指導	・避難訓練の事前、事後学習において、指導に加えて主体的、対話的で深い学びになることを意識する。生活科の安全教育に係る内容について、「健康管理」「危険防止」「交通安全」「避難訓練」。小学部より全校へ「ラップ」防災を広める（カリキュラム・マネジメントの活用） ・学校における全教育活動との関連を元に計画し、自然体験（火山や風水害を含む自然災害）や活動を促す中で、生徒の自発的な計画に基づき、月）体系化を図る。高等部においては、修学旅行先の防災安全についての学習を行う。						
教	生活安全	情緒の安定 日常生活における安全（「助けて」の発信）	集団行動の約束 友達との接し方	一人では行けない場所の確認	夏休みの過ごし方	自分の身を守る登下校や交通安全の安全な利用方法	不審者から自分を守る（防犯避難訓練）	集団行動の約束 友達との接し方
	交通安全	登下校の安全 安全な歩行	交通安全指導	雨の日の交通安全（傘のさし方）	交通機関の利用方法	横断歩道のわたり方 自転車の乗り方	交通安全指導	交通機関の利用 ナー

<資料 2> 随時見直しや追記をし PDCA サイクル実施を踏まえた学校安全計画

項目	月	4	5	6	7・8	9	10	11
月の重点		通学路の安全を確認しよう	運動会を安全に成功させよう	プールでの事故に気を付けよう	夏休みを安全に過ごそう	交通安全について確認しよう	しおかぜ祭を安全に成功させよう	交通安全について確認しよう
安全管理	対人管理	・生徒の状況把握 ・通学経路の確認 ・避難経路の確認 ・火元責任者の表示	・緊急体制の確認 ・健康観察 ・避難経路の確認	・水泳健康管理 ・健康観察 ・心肺蘇生法確認 ・AEDの研修	・水泳健康管理 ・健康観察 ・夏季休業中の安全	・水泳指導健康管理 ・健康観察	・健康観察	・健康観察
	対物管理	・防災計画届け出 ・通学路確認 ・安全対策マニュアル	・飲料水点検、避難経路確認、防災設備の点検（毎月のエレベーター点検）	・プール施設、設備点検 ・水質検査 ・岡山県立倉敷まきび支援学校の視察（8月）及び報告（協議会集め）			・防災設備の点検 ・天然ガス対策のロスナイ換気や感知器の点検	・暖房器具の設備点検
医療的ケア		・一次避難における教室環境の整備・非構造部材の確認 ・校外への二次避難における吸引器やアンビュー、発電機の搬出の具体的方法 ・災害時における避難時のグッズ（ラコール、エピペン等） ・（本年度在籍者はいない）家庭でのみ実施している医療的ケアの指示書						
学校安全に関する組織活動・連携（研修含む）		開かれた学校づくり委員会(年3回)、PTA(8月の納涼会)、地域との連携（避難先となる一宮カントリークラブ、網田集会所、一宮商業高校、睦見小学校、交通安全運動、通学指導、防災安全委員会、校外外及びスクールバス運行経路の危険箇所点検、教職員研修（心肺蘇生法・AED講習会、授業中に実施するプールでの緊急時対応、調理員等対象の食の安全に係る研修（ヒヤリハットの共通理解）） ・校外における児童の安全確保、情報交換、地域生活指導情報交換会、PTA連携推進、安全確認、教職員研修（医療的ケア児の緊急時対応研修） ・地域パトロール、防災安全委員会、教職員研修（スクールバス緊急時対応研修、大阪北部地震を受けた安全点検に係る研修、高台避難場所確認研修、学校安全研修（地域や他校へも案内）） ・秋の交通安全運動の啓発と街頭指導、授業中の不審者対応訓練、津波からの避難場所（瀬田区）との合同避難訓練、教職員研修（おすまたの使い方及び不審者への対応、天然ガスの換気等確認（天然ガス対策が必要な立地のため）） ・地域生活指導情報交換会、PTA環境整備、安全確認、教職員研修（前回の反省を踏まえた発作時等の緊急時対応研修）、地域、保護者研修（起震車体験の案内）						

<資料 3> 組織活動・連携の欄に、教職員研修の視点を明記し、視覚的に共有・意識できるようにする。